

令和元年度 高松市病院事業会計決算の概要について



病院局 経営企画課



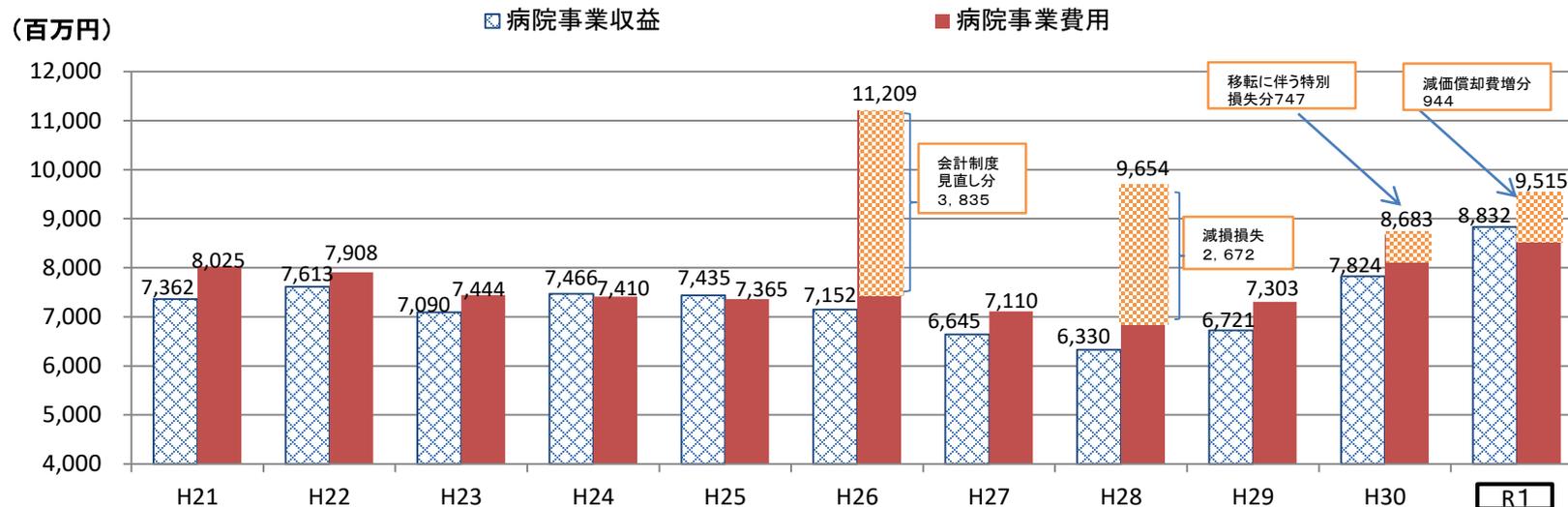
1 令和元年度収益的収支、現金・預金の状況

(単位:百万円)

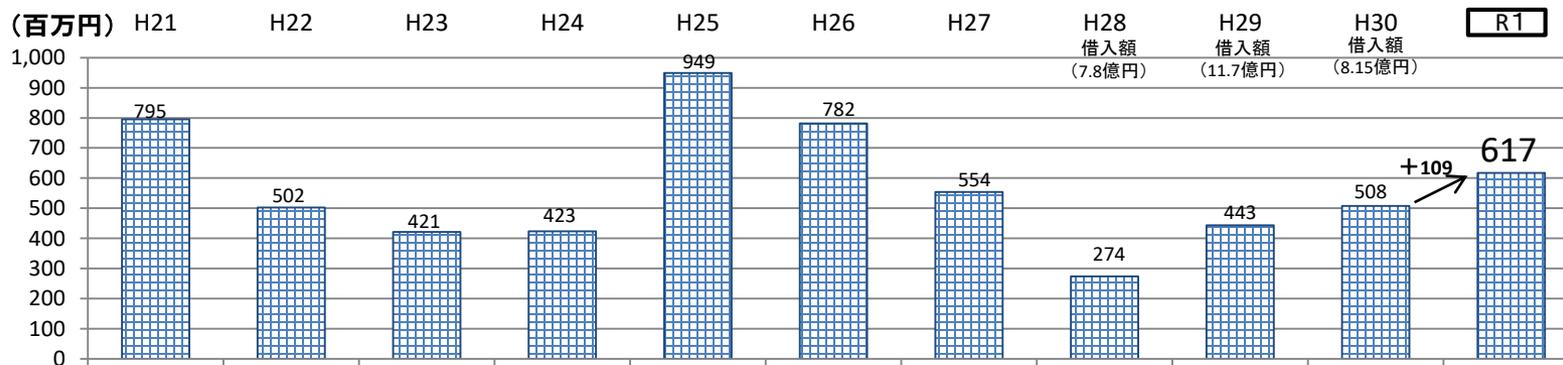
区 分		みんなの病院	塩江分院	全体
収 益	医業収益	7,248	385	7,633
	うち一般会計負担金	525	0	525
	医業外収益	861	251	1,112
	うち一般会計負担金	681	244	925
	附帯事業収益	—	17	17
経常収益 A	8,109	653	8,762	
費 用	医業費用	8,384	659	9,043
	医業外費用	372	17	389
	附帯事業費用	—	22	22
経常費用 B	8,756	698	9,454	
経常損益 C=A-B	△647	△44	△691	
特別利益 D	70	1	70	
特別損失 E	61	2	62	
特別損益 F=D-E	9	△1	8	
純損益 C+F	△638	△45	△683	
※税抜 ※端数処理の関係上、合計と一致しないものがある。				
現金・預金(年度末)	584	32	617	
長期借入・病院間融通を除いた実質残高※	△2,266	117	△2,148	

※長期借入27億6,500万円 病院間融通(塩江⇒みんな)8,500万円

2 病院事業収益・費用の推移（病院全体）



現金残高



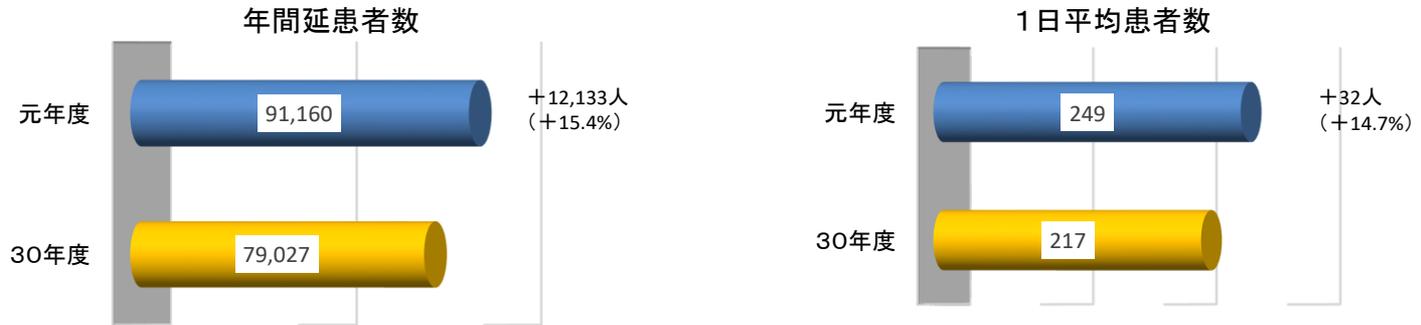
【分析と課題】

常勤医師の増員が図られたことに伴う診療体制の充実により、昨年度に引き続き、病院事業収益の増収が図られ、令和元年度の資金収支は、1億9百万円の黒字となった。今後、業務の改善・効率化等により、病院事業費用の節減にも合わせて取り組み、経営健全化を進め、現金・預金残高の確保に努める必要がある。

3-1 年間延患者数と1日平均患者数

みんなの病院

入院



●できる限り救急を受け入れる取組を進めるとともに、地域の医療機関との連携強化を図ることで、順調に増加している。

外来



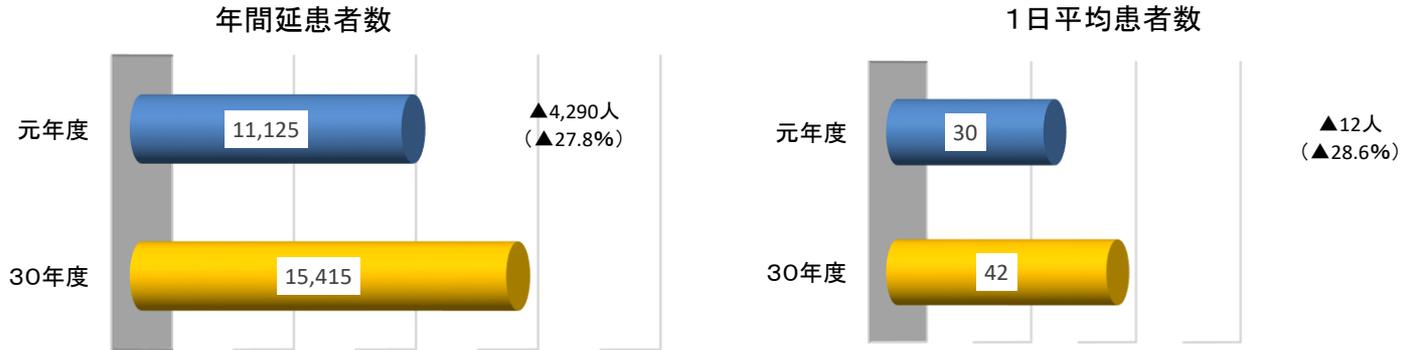
※香川診療所の外来患者数は含めていない。

●地域の医療機関からの紹介患者の拡充など、さらなる増加に向けての取り組みが実を結び、年間患者数は10万人を上回った。

3-2 年間延患者数と1日平均患者数

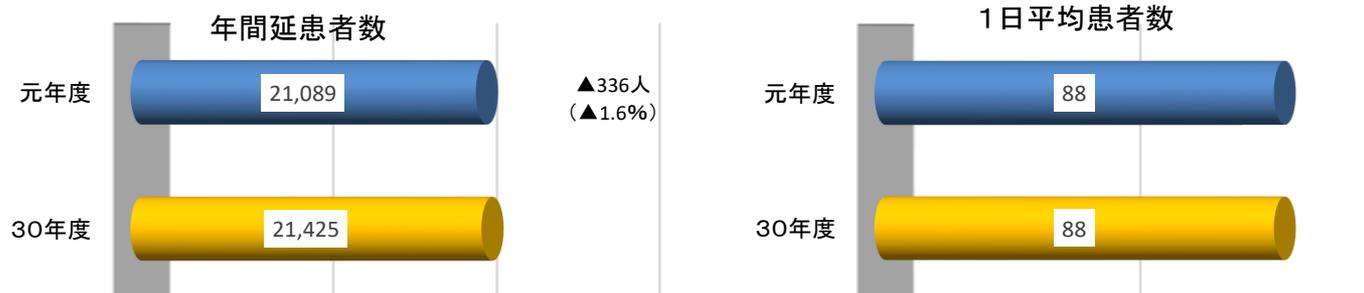
塩江分院

入院



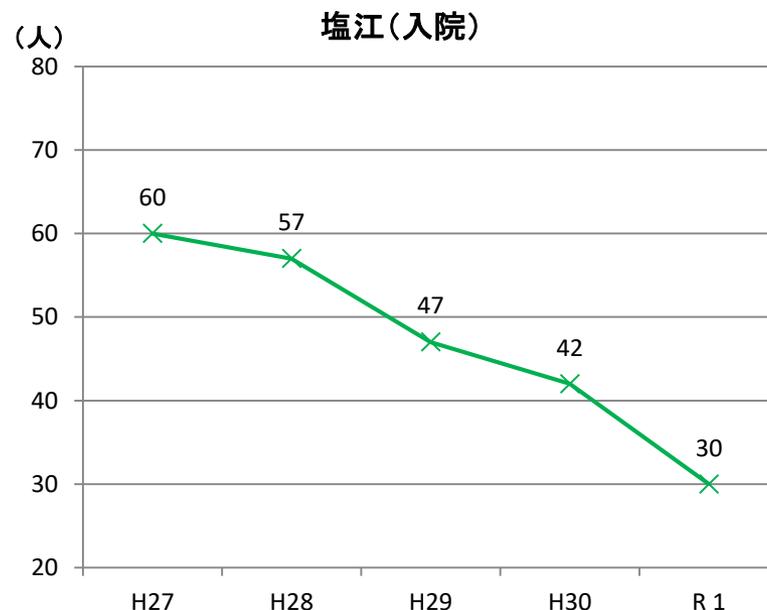
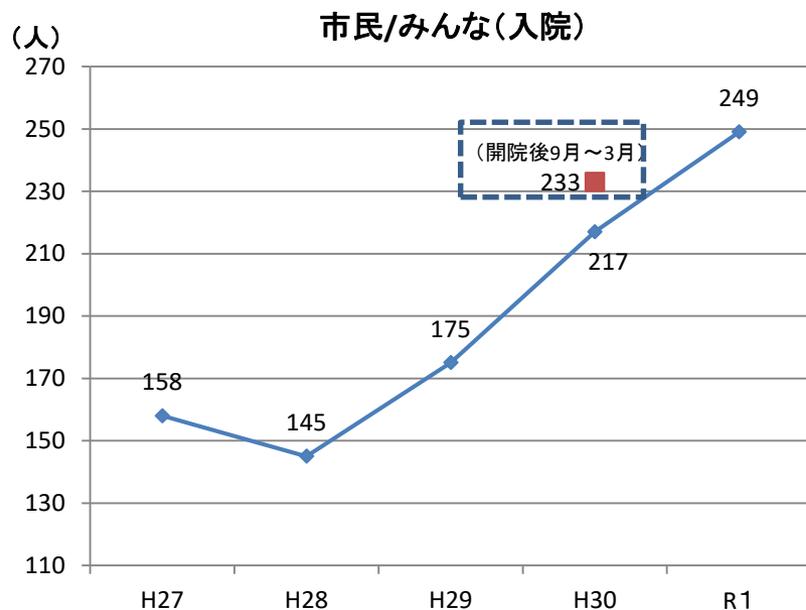
●塩江地区住民の減少や入院患者の施設入所などが影響し、減少している。

外来



●診療日数の減少により、年間延患者数は、若干減少したが、みんなの病院からの、医師や医療技術職の派遣など、応援体制の構築により、1日平均患者数は、前年度の人数を維持した。

3-3 患者数（1日当たり）の推移 ア 入院（市民/みんな・塩江）



【分析と課題】

常勤医師の増員（H30末：51人→R1末52人）が図られたことに伴う診療体制の充実に加え、できる限り救急を受け入れる取組を進めるとともに、地域の医療機関との連携強化に取り組んだことにより、順調に増加している。

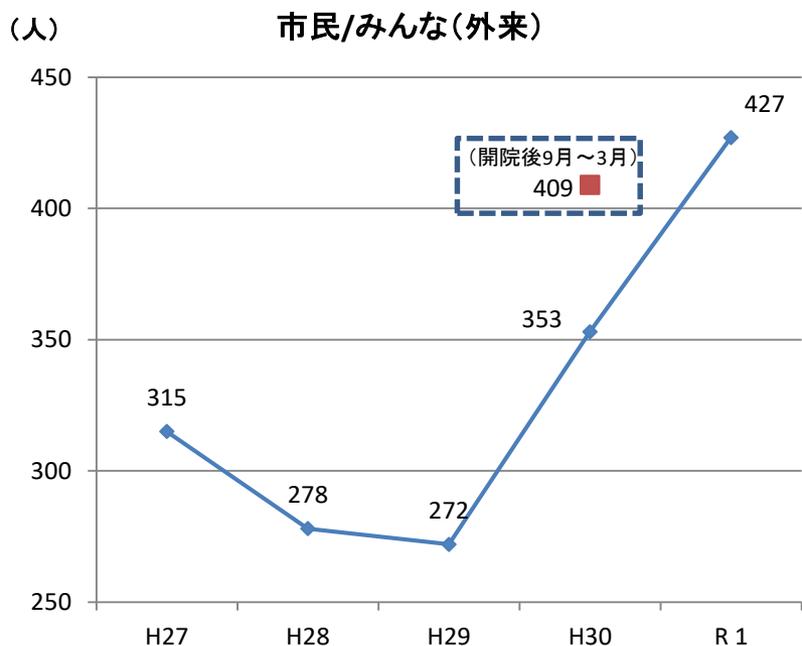
今後においても、良質かつ高度な医療の提供はもちろんのこと、接遇等患者サービスの向上に努め、安定した患者数の獲得に努める必要がある。

【分析と課題】

患者数の減少は、塩江地域の人口の減少のほか、入院患者の死亡や介護施設への入所などが影響しているものと考えられる。

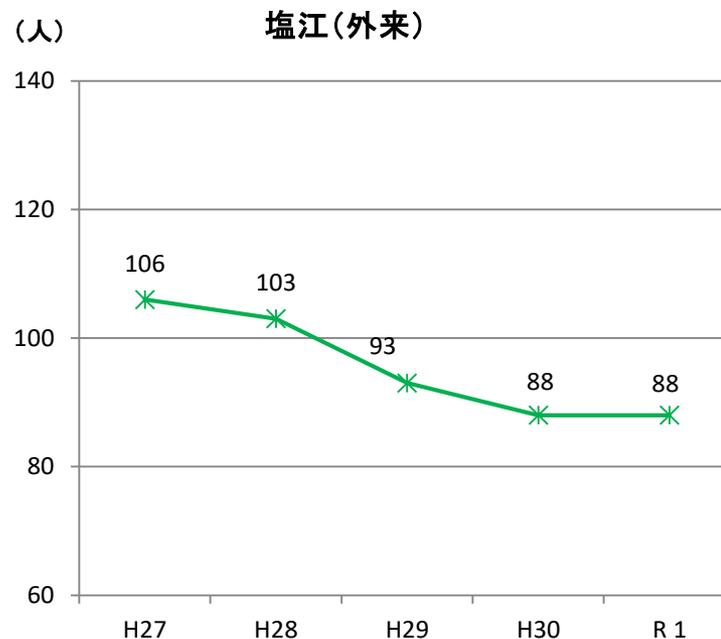
今後も、大幅な患者数の増加は見込めないが、引き続き、慢性期医療を中心に、在宅医療支援病院として療養を必要とする患者を積極的に受け入れる中で、良質な医療サービスの提供に努める必要がある。

3-3 患者数（1日当たり）の推移 イ 外来（市民／みんな・塩江）



【分析と課題】

入院と同様に患者数は、順調に増加している。
引き続き、機能分化を推進しつつも、地域の医療機関からの紹介患者の拡充や、救急患者の積極的な受入など、更なる外来患者の増加に向けて、取り組むことが重要である。



【分析と課題】

塩江分院の外来患者数は、減少傾向にあり、更なる厳しい状況が予想される。
これまで以上に、「地域まるごと医療」に取り組み、山間・へき地である塩江地区唯一の病院として、地域に根ざした良質な医療サービスの提供に努める必要がある。

4-1 みんなの病院の収益的収支

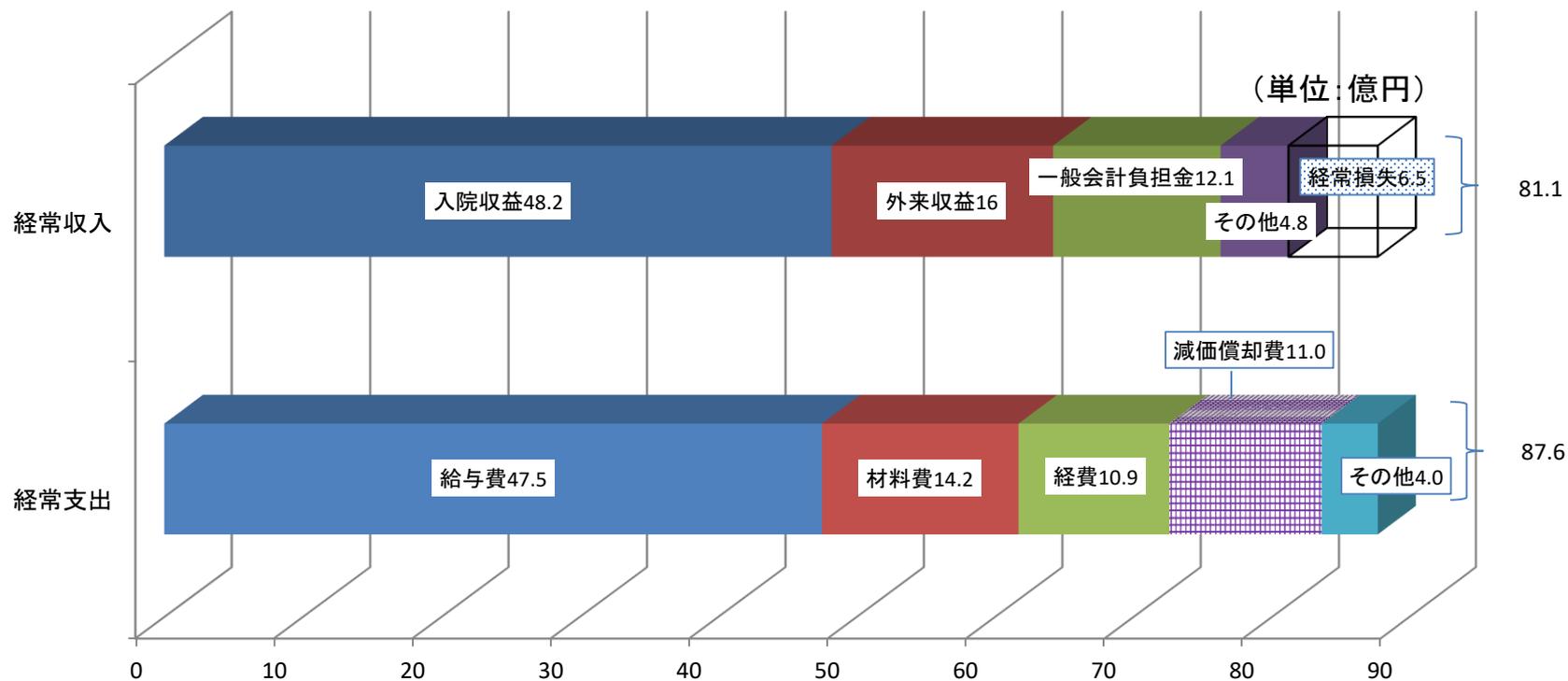
ア 前年度との比較

(単位:百万円)

区 分		R1	H30	差引増減
経常収益	医業収益	7,248	5,958	1,290
	うち入院収益	4,823	3,994	829
	うち外来収益	1,601	1,342	259
	うち一般会計負担金	525	388	137
	医業外収益	861	928	△67
	うち一般会計負担金	681	803	△122
	合計	8,109	6,886	1,223
経常費用	医業費用	8,384	6,738	1,646
	うち給与費	4,747	4,374	373
	(職員数:人【正規医師数】)	415【52】	402【51】	13【1】
	うち材料費	1,422	1,198	224
	うち経費	1,089	987	102
	うち減価償却費	1,098	154	944
	医業外費用	372	297	75
合計	8,756	7,036	1,720	
差引	△647	△150	△497	

※税抜 ※H30は、香川診療所分を含む ※端数処理の関係上、合計と一致しないものがある。
 ※職員数は、特別職を除く。

4-2 みんなの病院の収益的収支 イ 収益対費用



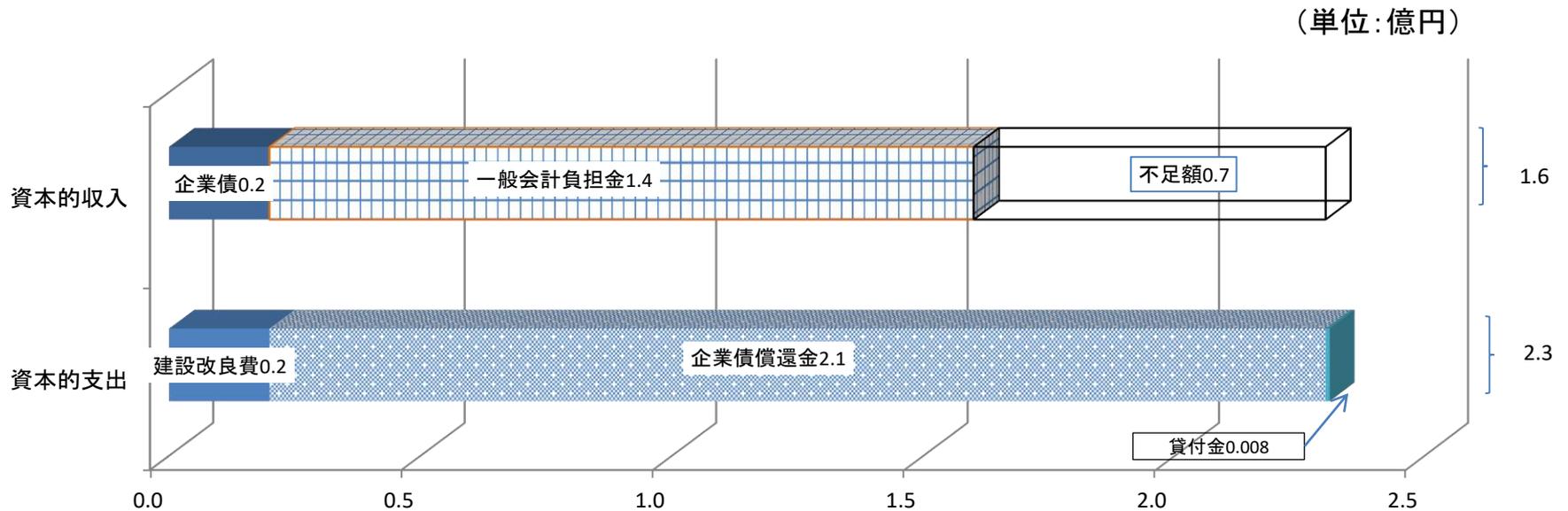
【分析と課題】

みんなの病院開院後の患者数は、入院・外来ともに順調に推移しており、それに伴って収益も増加しているが、一方で、施設規模が拡大したことによる施設管理経費や、患者数・手術件数の増加に伴う材料費の増大が想定以上に発生している。

これまで以上に「良質な医療の提供」とともに「患者サービスの向上」に努めることはもちろんのこと、給与費や材料費、経費などの費用について、可能な限りの圧縮に努める必要がある。

5 みんなの病院の資本的収支

ア 収益対費用



イ 建設改良費の内訳

○医療機器購入	2,093万円
全自動錠剤包装機	754万円
注射薬払出システム処方箋プリンタ	455万円
血液浄化装置	435万円 など

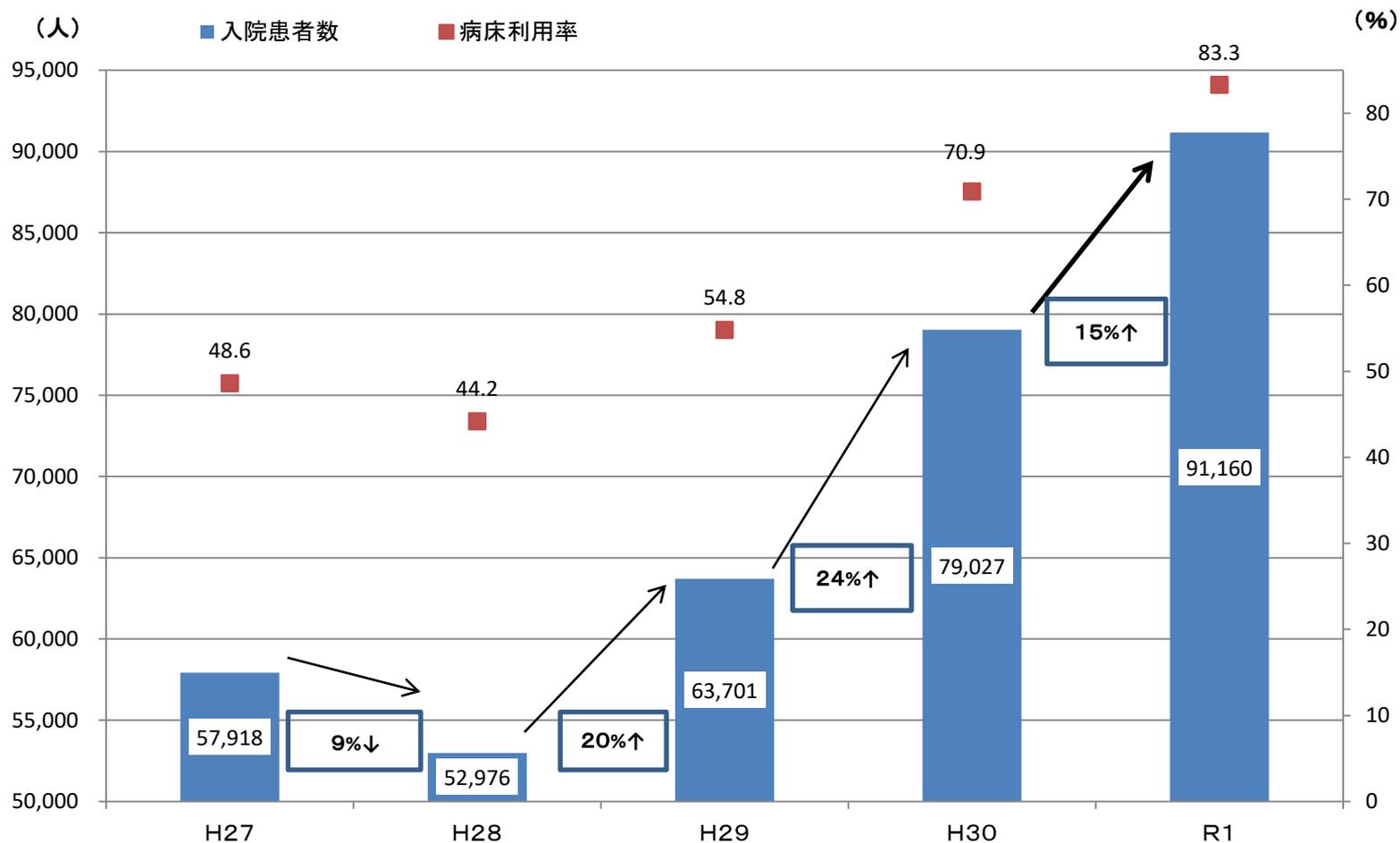
【分析と課題】

建設改良費については、その財源として企業債や一般会計からの出資金・負担金により賄われており、令和元年度における病院事業からの持ち出しは6,701万円となっている。新病院整備事業に係る企業債償還が本格化する令和2年度以降は、資本的収支に係る不足額※がさらに拡大するため、収益的収支において現金を留保する必要がある。

※令和2年度(予算)不足額: 1億8,584万円

6 入院患者数と病床利用率

市民／みんなの病院

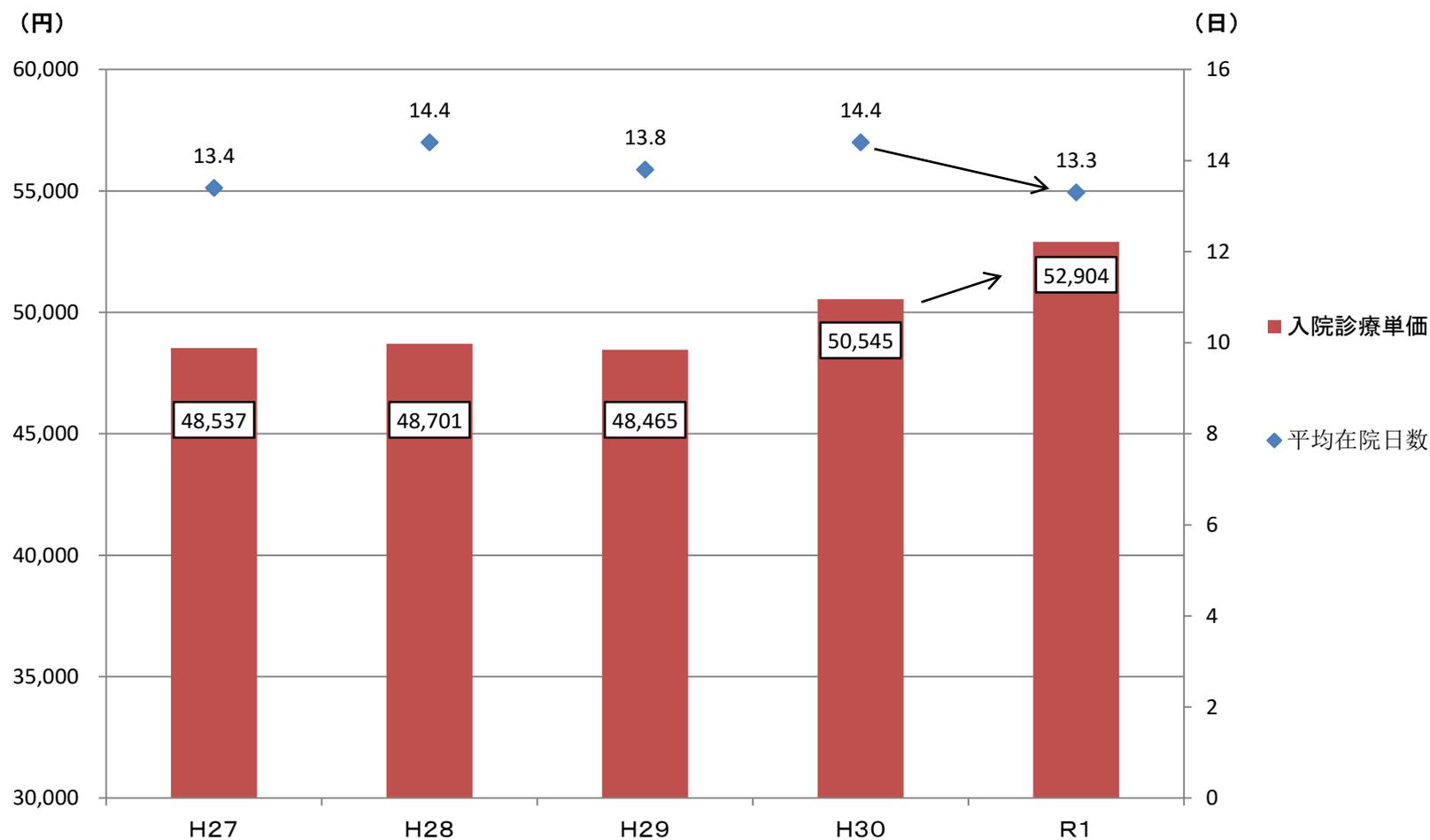


【R1分析】

H30に比べ1日当たりの患者数は32人増加するとともに、診療単価も、前年度(50,545円)を上回る52,904円となったことから、入院収益は約8億2,900万円増加した。

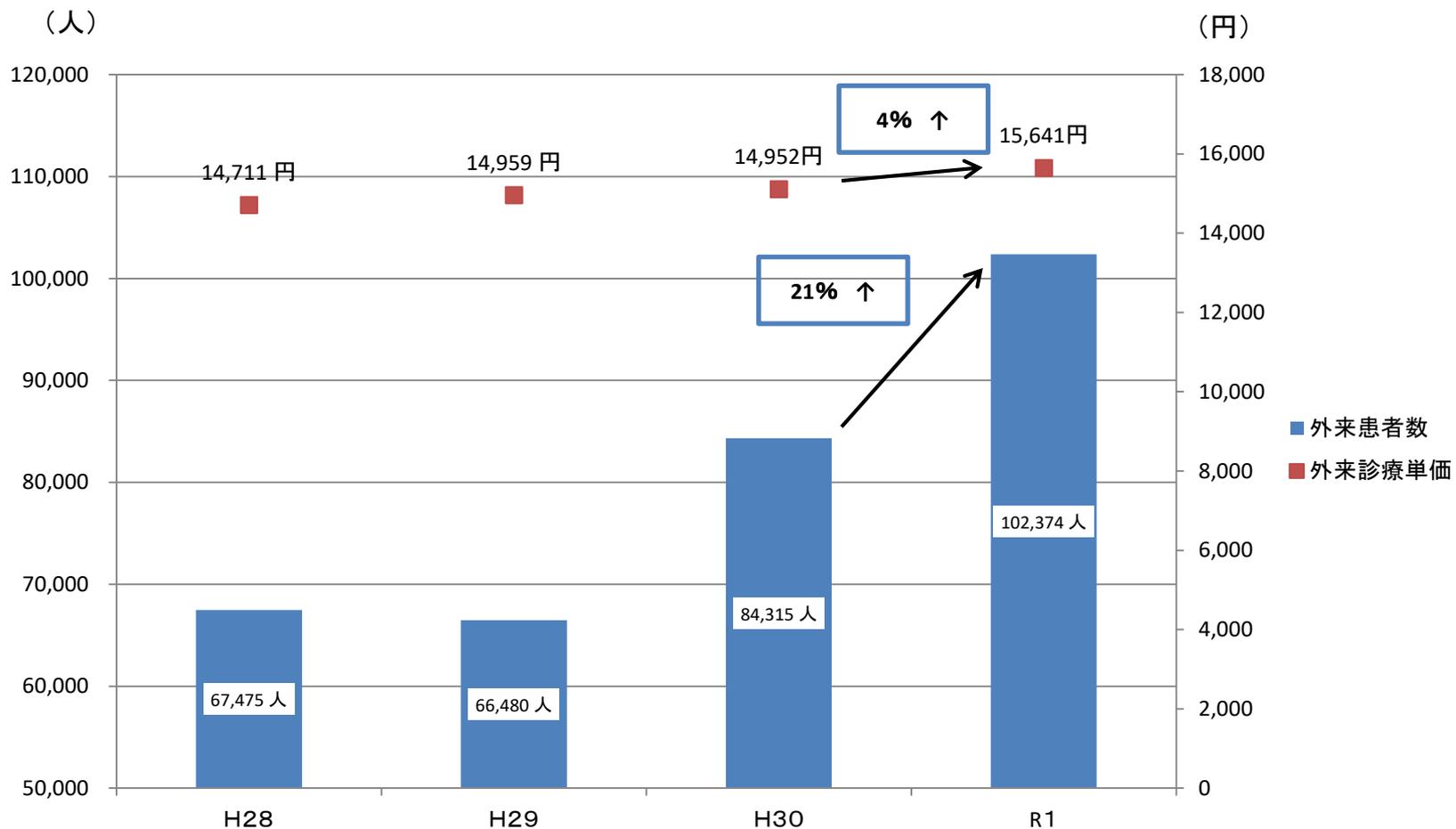
7 入院診療単価と平均在院日数

市民／みんなの病院



8 外来患者数と外来診療単価

市民／みんなの病院



※「高松市民/みんな」には、香川診療所分を含めていない。

【R元分析】

患者数は前年度から21%増加するとともに、機能分化の推進により、診療単価は4%増加した。

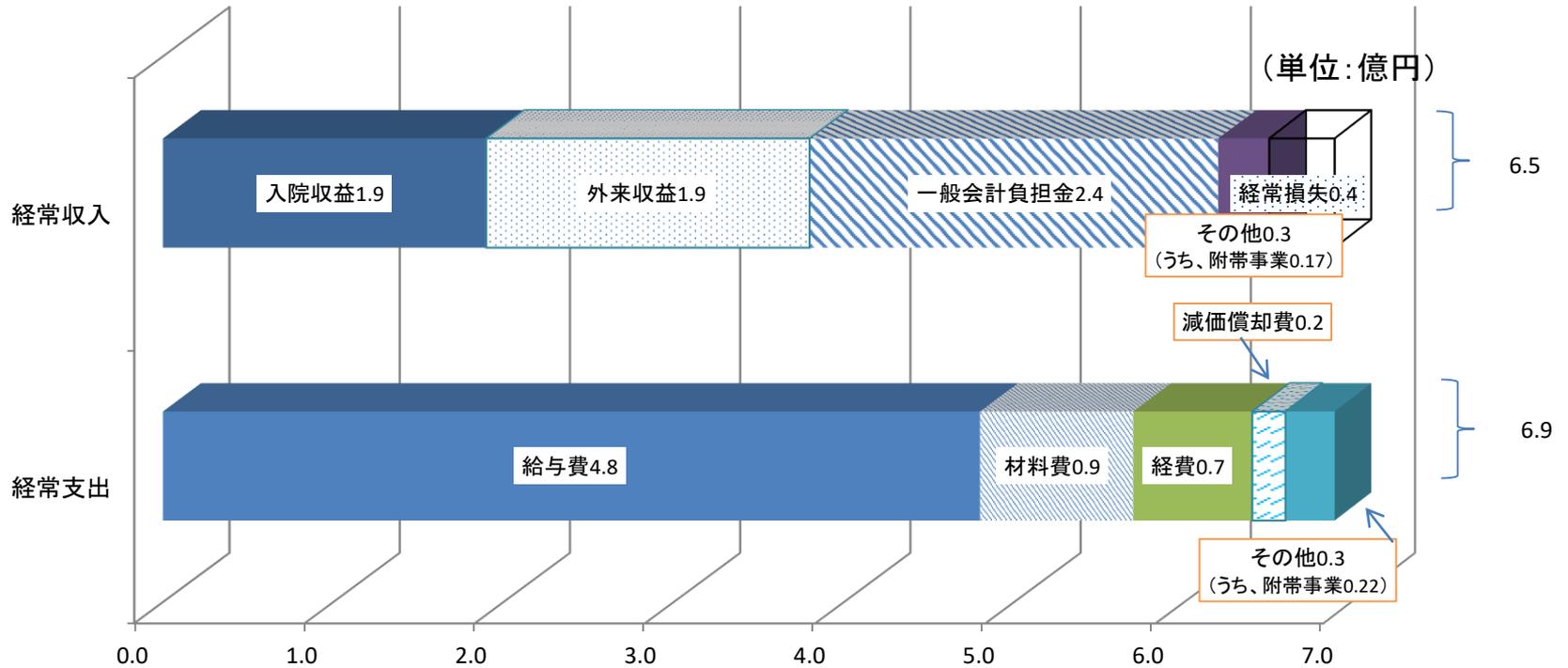
9-1 塩江分院の収益的収支
ア 前年度との比較

(単位:百万円)

区 分		R1	H30	差引増減
経常 収益	医業収益	385	463	△78
	うち入院収益	187	263	△76
	うち外来収益	189	189	0
	医業外収益	251	289	△38
	うち一般会計負担金	244	281	△37
	附帯事業収益	17	17	0
	合計	653	769	△116
経常 費用	医業費用	659	783	△124
	うち給与費	477	580	△103
	(職員数:人【正規医師数】)	38【4】	46【4】	△8【0】
	うち材料費	94	104	△10
	うち経費	71	80	△9
	うち減価償却費	14	16	△2
	医業外費用	16	17	△1
	附帯事業費用	22	23	△1
	合計	698	823	△125
差引	△44	△54	10	

※税抜 ※端数処理の関係上、合計と一致しないものがある。

9-2 塩江分院の収益的収支 イ 収益対費用



【分析と課題】

過疎地域という地域性から、経常収入に占める一般会計負担金の比率は高い。

また、入院・外来収益をもって給与費を賄えていない状況から、今後、運営のあり方を見直していく必要がある。